

ご近所のお医者さん

□
726
□

きだ呼吸器・
リハビリクリニック院長

松本学さん

—大阪市
生野区



年のせい？息切れ、だるさ

今年5月、大阪・関西万博で健康寿命を延ばす方策を話し合う「トランスフォームケア（保健医療の変革）」フォーラムが開かれました。そこで注目された疾患の一つが「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」です。世界の死因の4位とされるこの病気は、日本でも高齢者を

改善で生活豊かに

中心に患者が増加しており、対策が急務となっています。COPDは当院でも最も多く診療している疾患の一つで、喫煙が主な原因とされています。そのほかには、大気汚染や粉塵、化学

器を中心とした内科診療、呼吸リハビリテーション、在宅医療の3本柱で、患者さんの「息苦しさ」に総合的に向き合ってきました。

「最近、少し歩いただけで息が切れる」「階段を上るのがつらくて避けてしまう」「だるさが取れず何もする気が起きない」……。こうした症状を年齢のせいと考えて、つい放置してしまいう方が多くいらっしゃいます。ですが、これらはCOPDを含めた呼吸器疾患

のサインである可能性があるため、早期の発見と対応が重要です。

治療に入る前に、呼吸機能検査や画像診断を通じて肺の状態などを適切に評価します。治療は、薬物治療に加えて呼吸リハビリを組み合わせること、息切れの軽減や体力の維持を目指していきます。ある患者さんは、「息苦しさのせいで外出もできず、閉じこもる生活が続いていた」と話しておられま

した。しかし、継続的な治療とリハビリを重ね、体力と自信を取り戻し、現在ではご家族と旅行を楽しむまでに回復されています。こうした改善例は珍しくなく、正しいケアにより生活の質が大きく変われることを私たちは日々実感しています。

呼吸を整えることは、日々の暮らしを整えることにつながります。息苦しさを我慢せず、どうぞお気軽にご相談ください。